

外国語活動・外国語（小学校）

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

インプットを十分に取り入れた授業づくりに向けて

- ・適切な使用場面で、慣れ親しませたい表現や定着させたい表現を十分に音声で聞かせ、児童の気付きを引き出す活動を設定する。
- ・インプットした語句や表現を必然性のある場面で活用する言語活動を設定する。

言語活動を核とした授業づくりに向けて

- ・単元末の児童の姿や実際のやり取り等を明確化し、計画的に言語活動を単元に組み込む。
- ・他教科と関連付けるなど、児童が興味・関心をもち「伝え合う」ことへの意欲が高まる題材の選択や場面設定をする。
- ・英語の音声に慣れ親ませることで言語の意味や働き等が理解できるような活動を行う。
- ・自分の考えや気持ち等を互いに伝え合う活動を通して、最終的には、物怖じすることなく自分の英語で自己表現できる子どもを育成する。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせつないで	認め励ます
<p>■学習意欲を高め、主体性を引き出す授業展開の工夫 児童の「伝えたい」「できるようになりたい」という学習意欲を高める工夫をする。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの必然性のある言語活動を設定。 ・CAN-DO リストに照らして単元前に単元目標（単元ゴール）を児童と共有。 ・単元導入時、児童にとって身近な場面での自然な対話をモデルとして提示。 	<p>■中間指導の充実 児童が単元目標を意識しながら活動に取り組めるように中間指導の充実を図る。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価や見通しのある学習を促すため、中間指導の場面で単元目標を再確認。 ・児童がつまづきを共有し、用いる表現や伝え方について話し合う場面の設定。 ・児童の困り感を解消するような、ねらいを明確にした練習場面の確保。 	<p>■単元前後の変容を称賛 児童一人一人について、単元を通して何ができるようになったのかを見取る。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CAN-DO リストの目標に照らした振り返りの実施。 ・児童の発話を録音・録画するなどして、個の変容を単元前・中・末で見取り、具体的に称賛。 ・発話量だけでなく、発話の内容や正確性がどのように変容したかを評価。

ICTの活用について

小学校外国語指導においてICTを活用する際のポイントを紹介します。

○ 児童の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化

- ・言語活動（特に「話す」、「書く」機会）の充実とパフォーマンステスト等評価への活用
- ・言語活動で活用するための、音声・文字・語彙・文構造・文法等の定着（反復練習）

○ 遠隔地・海外とのコミュニケーション場面の確保

- ・遠隔地や海外等の子どもたち、英語話者との「本物のコミュニケーション」が実現
- ・小規模校における対話的な学びが可能

○ 興味・関心、学習の質の向上

- ・コミュニケーションのモデル提示、「聞く」「読む」ための素材の提供
- ・板書や説明時間の短縮等により、言語活動中心の授業展開が可能
- ・写真やイラスト等により、日本語を介さずに英語のまま理解することを支援



【参考】文部科学省HP「StuDX Style」(<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>)